



石堂丸菫萱物語

^ 13
3113
1



へ13
3113
1-5

五十載号

有叙 四界

丙寅年畫工北齋子いが著作堂お拵合て。春

よつ夏のはじめに至る。四箇月一日余は謂て曰

嘗聞 荊萱記と五説経の一ふと。今る月人より

膾炙を顧み作者寂滅の本意とせり是故に

蘇氏一城の主とて。妬婦の妄想に慚愧し卒余

ら多頭と圓め潜み高野山に隠し。煩惱に

正徳書局蔵

脱離と稱す且その徒の老幼これと追慕し僧と
なれど如この縦佛家の忠臣といふも祖先の爲め
不孝なるを宣はれざる婦幼もこれに及ぶ毎に
るは遺憾少くとも主翁設彼後傳に作らば
その次閱者の快事なりといふ余が曰凡野史に説
因果の兩字小根がれははしあられども作者乃用公
精細なればとれは動とバ勸懲との我小違ふと

あり吾親しくその書に
續く遂小迷漏と纂輯して爲こし五七橋梓
の再會家門の榮達とりく結尾とて亦是風化
追ひ影と捕の談や群犬声吠の此言とみせん
深く架上小秘人とすれは詩に北子傷小在くすれ
と圖し書肆豪奪しと續梓己小成ふ因て顔と
苧萱後傳玉擲筥といふ夫玉擲筥といふ何を父と

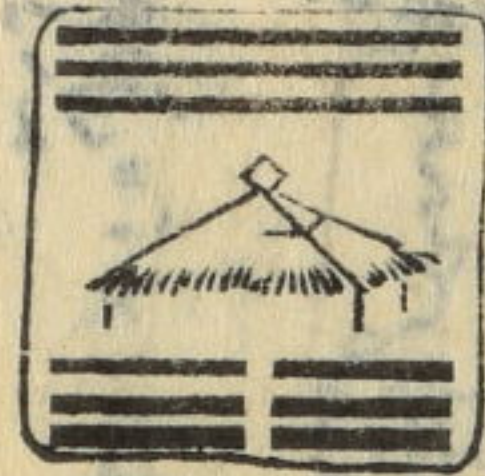
玉擲筥

〇二



玉簪前巻上

夫婦ぬまびあめの日頭髪と剃除せざどく遍流
 用れの謂なり。披園の君子且題目を認得く。彼此
 の説を爲とら流宜くその異なれとありあまのさし。
 丙寅立秋後一日飯台の馬琴ふらふ叙





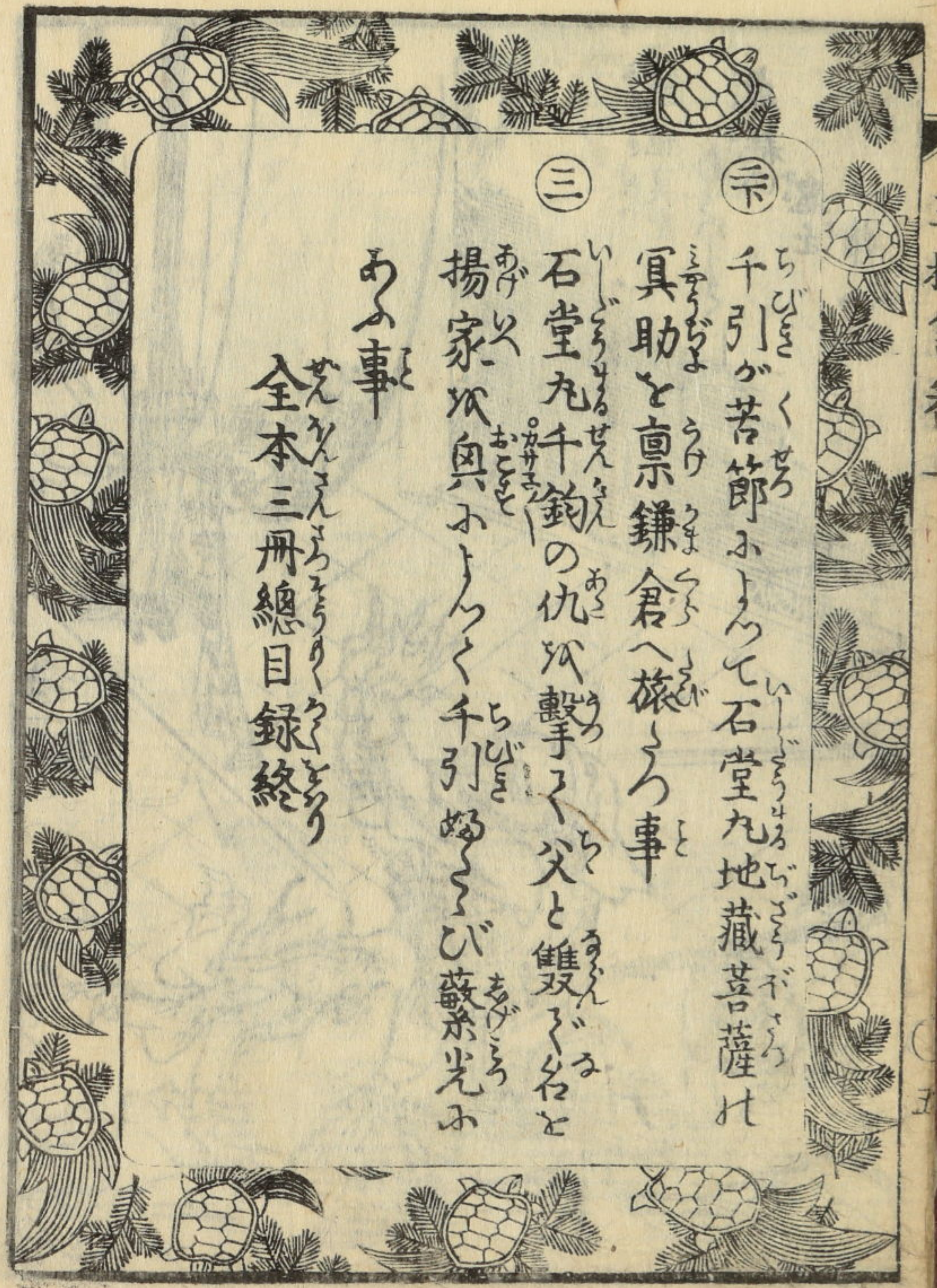
鐘あやうききれいを
 虚きふ耗くの
 鬼おにを
 捕とらふ



千引が若節ふりて石堂九地藏菩薩に
眞助と稟鎌倉へ旅する事

石堂九千鈎の仇に撃つ父と雙双名と
揚家次與ふりて千引のびに蔽糸光ふ
あふ事

全本三冊總目錄終



石堂九苺萱物語一之卷

曲亭馬琴戲編

源姓か算術藝糸光が射法巧拙ふりて

おのく賞罰に當る事

今ハハハし從二位源朝臣頼家卿鎌倉將軍ふりしとて

天下且く無異不爲し君臣安寧なりと志くれば

將軍家ゆ年々くおへはせしるよ海河我意ふまじ

理世安民の政ハ露むりも公不切けりやと或ハ放鷹

漢捕入日を送り或ハ伎術薄藝一夜とありし且奇

好^よ物^{もの}小^こ泥^ぬこ^こ多^たひ^ひ建^た仁^に二年^に夏^あ六月^む。和^わ田^た平^へ太^た胤^{いん}長^{ちやう}
を。伊^い豆^づの伊^い東^{とう}が崎^{さき}の洞^{どう}小^こ入^い也^{なり}。仁^に田^た四^し郎^{らう}忠^{ちゆう}常^{じやう}を富^ふ士^しの人^{ひと}
穴^{あな}小^こ入^いと^とく。その奥^{おく}源^{げん}深^{しん}究^{きゆう}と^ともふ。胤^{いん}長^{ちやう}忠^{ちゆう}常^{じやう}幸^{しやう}ふ^ふ
性命^{せいめい}恙^{じやう}なく帰^{かへ}りし^し事^{こと}成^{なり}得^えたりと^とい^いふも。忠^{ちゆう}常^{じやう}が往^い者^{しやう}
五^ご六^{りく}人^{にん}洞^{どう}の中^{ちゆう}に横^{よこ}死^しせり。これ世^よと^とく^くあ^あれ^れと^と海^{うみ}に^に沈^{しづ}み^みぬ^ぬ
假^{かり}初^{はつ}の遊^{ゆう}奥^{おく}小^こ家^か人^{にん}の艱^{げん}苦^くを顧^{かへ}る^るも^もな^なら^らぬ^ぬハ。恨^{うらみ}と^と今^{いま}に^にこの^{この}も^も
多^たく^く。氏^{うぢ}神^{かみ}あ^あも^もえ^えて^てな^なら^らぬ^ぬも^もひ^ひま^まん。鎌^{かま}倉^{くら}の宮^{みや}中^{ちゆう}に^に於^{おい}て^て
あ^あぐ^ぐく^くあ^あや^やり^り事^{こと}な^なり^りぬ^ぬ。あ^あぐ^ぐく^くに^に頼^{たの}家^か々^々常^{じやう}母^{はは}愛^{あい}
玩^{あそ}ぶ^ぶも^も黄金^{こがね}の鈴^{すず}二^にあり。し^し唐^{たう}の玄^{げん}宗^{しゆう}皇^{かう}帝^{てい}春^{はる}の鳥^{とり}

の心^{こころ}あ^あぐ^ぐく^く。花^{はな}と散^{ちり}て^ては憎^{にく}み。黄^こ金^{がね}の鈴^{すず}と野^の木^ぎの枝^{えだ}に^に著^つ
は^はし^しま^まふ^ふ。その鈴^{すず}風^{かぜ}の随^ま音^ねと發^はせ^せり。鳥^{とり}は^はこれ^{これ}小^こ驚^{おど}き^きと^と
花^{はな}小^こ近^{ちか}づ^づこ^こと^とな^なし。これと護^{まも}花^{はな}鈴^{すず}と名^なけ^けれ^れり。天^{てん}寶^{ほう}
遺^い事^じあ^ある^る也^{なり}。今^{いま}の二^にの鈴^{すず}も^もその類^{るい}なり^{なり}ん。則^{すなは}天^{てん}宝^{ほう}
の年^{ねん}号^{ごう}を彫^う刻^くし^し。異^い朝^{ちゆう}傳^{でん}来^{らい}れ^れ奇^き物^{ぶつ}も^もと^と近^{ちか}徒^たの士^しも^も
も打^{うち}ま^まり^りあ^ある^る也^{なり}。御^ご坐^ざら^らく^く秘^ひか^かう^うせ^せま^まひ^ひは^はれ^れり。あ^ある^る朝^{ちゆう}
頼^{らい}家^か卿^{きやう}。づ^づら^ら鈴^{すず}灰^{はい}し^しま^ます^すれ^れ相^{あい}と^と用^{もち}く^くえ^えま^まふ^ふ。し^しの^の後^ご
あ^ある^る矢^やら^らり^りん。裡^{うち}あ^ある^るも^もな^なし。こ^この^のゆ^ゆじ^じに^に椿^{つばき}事^{こと}あり^り
と^とく。有^あり^り小^こ仰^{おほ}す。巖^{いわ}く穿^{せん}鑿^{さく}せ^せる^るも^もな^なし。終^{つひ}小^この^の往^い方^{はう}と^と

あふ。時小太輔坊源性といふ。ト筭算術の父也。元ハ流ヨアリク仙洞小伺候。進士九條尉源教正子と号ス。儒学不耽。翰墨小長ト。後不入道。近曾鎌倉小下向。將軍家小召出され。近従出頭付たり。以テ頼家々々の源性ト作テ鈴の在所をなす。抑太輔坊源性ト筭算術の名世小高くなり。緑故ヲ尋ル。ヒトトセ奥列伊達郡小境論あり。そのト元實檢の爲小源性トつゝされ。元末曆算その妙を究メハ錯を談ト。疑ハレを決。是非明白小批判セ。夜母

論議忽地小止。双方感伏。源性のつゝもあつ。のうと自誇。それより道の叙よ。松嶋一見せ。やとあり。彼小赴。松の林の中。いとあや。庵あり。折ふ。日も暮。小宿と求。小主の老僧信。く。款待。通骨種。法同。論辨。小博学。宏才。源性。が。所。あり。と。源性。竊。憤。あり。声。と。あり。立。く。い。や。凡。学者。は。小。園。た。れ。あり。又。筆。談。小。長。と。れ。あり。これ。人の。巧。拙。小。れ。中。も。あ。り。も。その。は。あ。れ。は。ち。り。す。こ。が。い。る。所。と。談。が。筭。術。小

術ハ末世下根の人れ爲小授がじ。貴僧その才を誇れ
てくまへ今より學術大ふさむむご。どく帰るなま
しそがーろふ推辞がく拜しとられ鎌倉小帰著し
頼家卿ふありしるもみづえまれば杉家々聞食く
その僧と伴ふさふそ越度あれ。この瓶あどに奴されつん
と宣い。敢奇特も志あはげれ氣色なりし。源性が并
術ハこのち大ふさみけれも。かほ名譽の人なれど。この
源性小仰せく。今度紛失せ。二つの鈴やうるあ。あふ
あむ一考くしとす。件の鈴と鬼の爲小盗去れ。但一



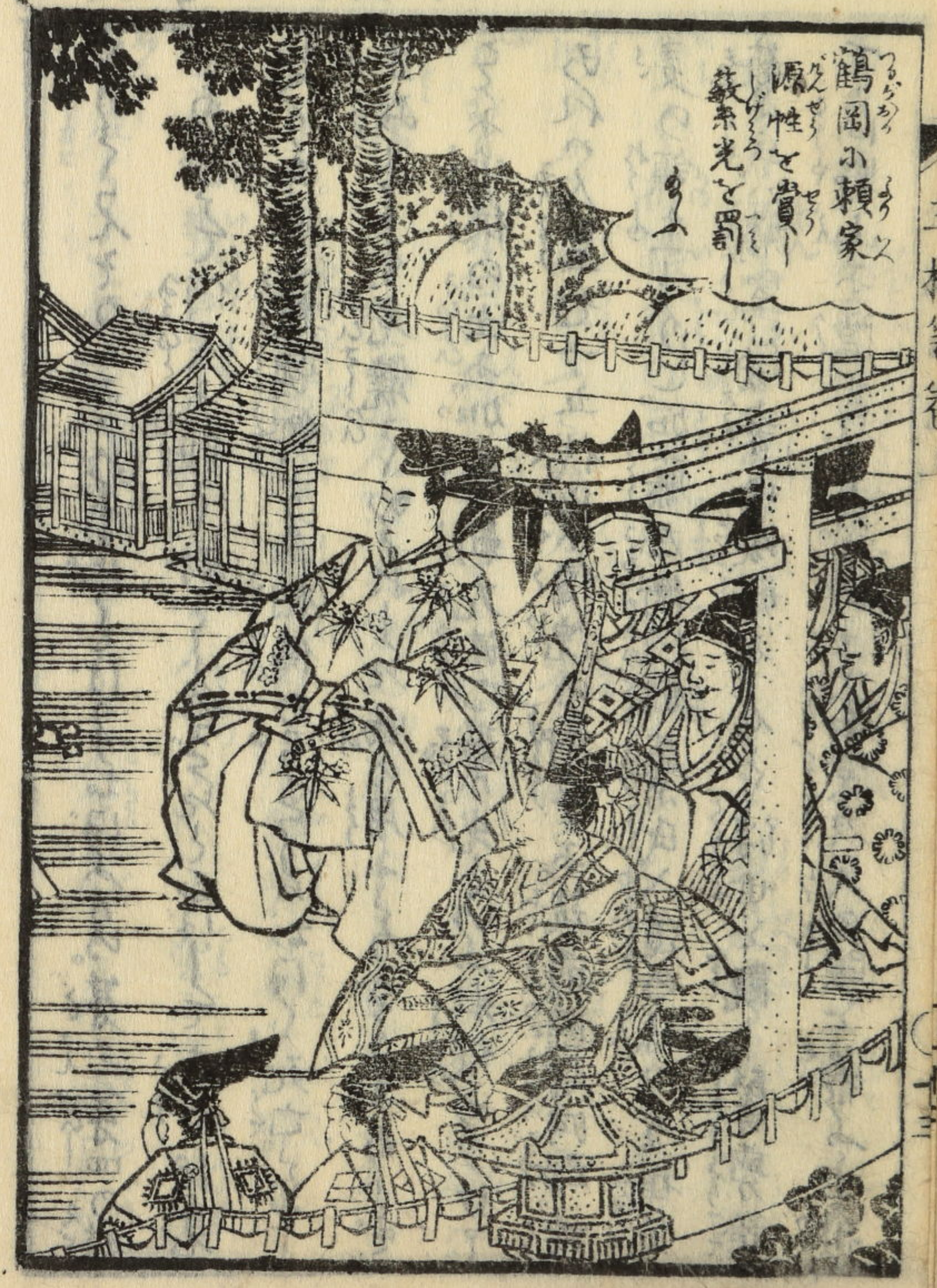
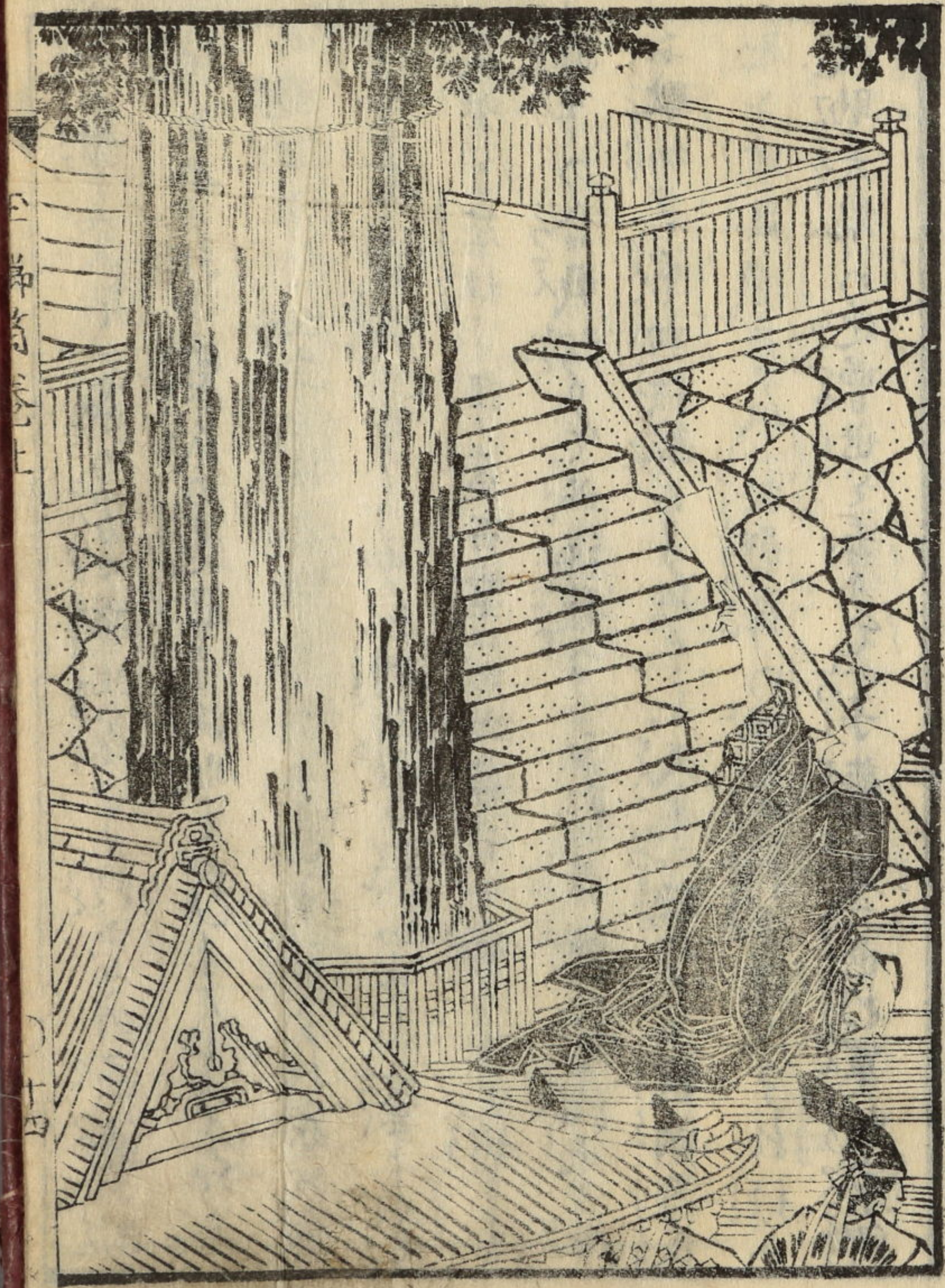
大樹の武威灼然なれば盗しとくも遠くかくしと得也。
今現小鶴岡社頭りれ大銀杏の抄。第一第四の段小樹
あまめ。む。一唐朝玄宗皇帝の時あもかれ例あ。逸史
小云明皇玄宗帝の開元年中。武を驪山の翠華小講こ。
帝と夢こまふ。その爲体ありに犢鼻と著。一足の靴こ一足
鬼と夢こまふ。その爲体ありに犢鼻と著。一足の靴こ一足
と履こ。腰小一履と懸。こ小破くれ筠扇。把楊貴妃の
繡香囊と帝の玉笛とを盗ん。殿中成繞て奔戲せり。
帝これと叱く。故と回さふ。彼鬼奏し。これの塵耗くと

中と帝いし怪し。朕いさゞ虚耗の名とすることあり
 と宣へ。鬼又奏さるる。虚を空虚の中不望と。人の物
 盗む事戯るがごとし。耗はまづら人の家を耗す。喜事
 と憂とあり。その見たりとや。帝大に怒る。武士と召ん
 り。折しも。俄ありて一の大鬼見せ出。その形破れ。帽子
 と頂と。藍袍を衣。角の帯。繫朝靴を鞞。直小件の小鬼
 爪捉。劔を抜く。まづその目子と。り。拔。遂に撃つ。これに
 啖ふ。帝その大り。れ者。を召。汝ハ何人ぞ。と問ふ。と。曉
 く奏さるる。臣ハ終南山の進士鍾馗なり。武徳年中

應舉。捷なり。げれと。羞る。故。御。小。歸。了。殿。の。階。小。觸
 く。死。と。その。と。た。帝。緑。袍。を。賜。り。と。厚。く。葬。す。と。あ。ひ。ぬ
 因。り。怨。と。感。し。誓。を。發。す。王。の。爲。小。天。下。の。虚。耗。妖。孽
 の。り。を。除。く。の。り。と。い。ひ。詠。ふ。忽。然。と。て。帝。此。夢
 ぞ。え。ま。ひ。異。例。も。又。隨。り。平。愈。あり。し。ら。畫。工。兵。道。士。よ
 詔。し。鐘。馗。の。形。と。圖。せ。り。め。す。後。世。本。朝。不。傳。へ。畫
 家。往。い。これ。と。圖。し。門。戸。不。貼。り。邪。鬼。と。退。く。れ。とい。ふ。の
 是。なり。顧。小。会。堂。中。の。鈴。と。盜。去。と。は。の。り。の。も。虚。耗。れ
 邪。鬼。り。り。り。の。り。と。鈴。と。と。し。も。ふ。た。ハ。大。り。れ。崇

あり。その家三代弓馬の妙奥を究むれば武士不仰。射も
 一多。万ふ一つも崇あるはどしと。頼家卿録由。瓜
 食く彼銀杏の高さ。凡地を離るること。いくむくり。あふれ
 同。あふ。源性。あふ。ひ考。木の高さ。十五丈四尺七寸八
 分あり。第四の枝。八東。あふ。て。十一丈二尺八寸。第三の枝。八
 南。あふ。て。十二丈五尺一寸九分三厘あり。と。これあふ。て
 次の日。頼家卿。鶴岡。社。あり。銀杏の妙。御覽。あふ。る
 小。この樹。幾百年。と。孫。あふ。り。亭。あふ。り。雲。あふ。交。枝。葉
 參。差。あふ。り。て。鈴。あふ。り。何。処。あふ。り。も。あふ。り。究。あふ。り。れ。遠。目。鏡
 あり。と。い。れ。り。と。

とりく。え。その。あ。い。ま。ね。ふ。是。と。ば。う。あ。は。り。の。第三。第四。の。枝
 あり。と。何。人。あ。仰。と。射。と。ひ。を。た。と。お。は。し。て。九。右。見
 あり。と。頼。朝。卿。より。相。傳。の。弓。あ。り。の。お。は。り。死。亡。あ。り。と。
 生。跡。あ。り。と。老。饑。あ。り。と。物。の。用。あ。り。と。あ。り。と。あ。り。と。
 小。近。從。の。士。あ。加。藤。新。九。場。つ。藤。光。と。い。ふ。壯。俊。あ。り。と。
 此。れ。の。人。皇。七。十。五。代。崇。徳。院。の。御。宇。小。筑。前。國。那。河。郡。博
 多。の。領。主。あ。り。し。加。藤。左。衛。門。尉。藤。原。氏。入。道。の。孫。あ。り。と。祖。父
 藤。原。氏。の。嫡。室。傍。妻。の。嫉。妬。あ。り。と。浮。世。と。觀。と。髻。前。が。捨
 て。高。野。山。小。隱。あ。り。と。その。子。石。堂。九。父。の。眼。と。暮。あ。り。と。彼



山小松平登一。一家の男女夥出家せし経小。その家逐ふ絶。とあるに不繫氏の遺腹子氏助といひ一人。その母の親里あて出生し。成長のち。いふもし。後々家氏與ふんと。その志あり。時とひざれば。いふも。窶しそ筑紫に居住し。年未石堂口の地蔵井と禱りけり。折も源平の合戦起りて。西海穩る。ふざれば。氏助がて源氏の陣ふ馳加。軍功傍群たり。天平一統のち。頼朝卿氏助と近臣召ふ。一処懸命の地と宛行。これ。氏助夫婦の近曾世と去りて。一子不繫光二世。頼朝卿郷

お仕公。おま父小。おか。ね。奉公。す。等。困。る。今。茲。九六。なり。射。藝。の。祖。父。不。繫。氏。の。眞。衰。と。兼。る。三世。の。妙。身。と。究。百。發。か。り。と。百。中。の。手。段。あり。六。の。人。供。奉。ま。君。邊。お。けり。け。は。頼。家。々。彼。鈴。成。社。と。い。ふ。の。不。繫。光。に。を。別。お。あ。ら。う。も。ら。ふ。と。お。ぼ。し。て。その。命。と。多。ハ。不。繫。光。答。り。と。中。射。藝。ハ。之。代。家。小。け。て。小。的。大。的。射。鳥。大。迫。物。或。ハ。步。射。遠。射。照。射。戲。射。不。あ。る。と。て。人。の。こ。の。不。繫。光。は。つ。れ。て。し。も。これ。ハ。尋。常。不。品。の。離。婁。が。眼。を。て。る。と。も。定。う。あ。ら。ば。抄。の。鈴。を。い。は。て

射ておとす。ねらぐハ別人ハ仰つらるるやとヤも受
 ぬ。頼家ハ氣久変りて。やそれ藤原光后昇ハ日を射ておと
 本寺克用ハ針の孔を穿。彼も汝も共ハ一箇の丈夫なり。どうぞ
 矢ハ十六丈と有り。限りハ今この木の枝究る高しと
 十二丈おとぞ。本朝の武士弓勢十六町ハ乃ハ乃の往
 國史ハ入る。夫君の禄を受。妻子を養ハハ何の爲ぞ。
 かの射たの用も。くらぶさ。屬る。ま。射。及。び。は。は。ん。の。こ
 汝射ぞ。して。辞退。され。ハ。不忠。なり。未練。あり。只。今。月の。暇。を取
 される。と。ハ。煥煉。工夫。年。と。積。と。物の。用。も。立。る。く。ハ。乃。の。射。小

歸。心。せ。よ。と。く。退。出。の。入。り。く。い。い。懲。り。と。ハ。藤。原。光。深
 く。面目。と。う。あ。い。く。忽。地。宅。小。追。入。され。かり。ハ。頼。家。ハ
 と。誰。も。も。あれ。件。の。鈴。と。射。と。ら。ん。の。ハ。過。分。の。因。心。賞。を
 ぶ。と。觸。さ。り。多。ひ。か。ど。り。射。損。じ。た。ん。ハ。あ。の。勅。は。身。に
 大事。お。及。ぶ。と。猶。豫。し。て。られ。ん。と。い。ふ。の。も。ほ。され。ハ
 と。く。杣。を。入。し。木。を。伐。り。鈴。を。と。る。と。た。の。宗。あり。と。源。性。ハ
 と。い。ひ。所。も。黙。止。つ。り。夏。既。ハ。難。義。ハ。乃。び。く。且。く。冷。と。ら
 る。沙。汰。ハ。母。を。ね。抑。今。度。頼。家。卿。愛。玩。し。ハ。護。花。鈴。と。虚
 耗。の。鬼。ハ。盜。去。つ。と。さ。う。も。鶴。岡。ハ。幡。宮。の。神。木。ハ。掛。お。ひ。と。り

諸

いとも思議なりして在録倉の良賤士庶おのく怪と
 なるれいなしとてりくあほよの細とてあらん為小潜小源性
 吉凶を同人あれども源性あつたれと告ぐ但二年は
 主と草十八年おして彼冷たかりて管中おくる事あんと
 りしり果して二年を經く頼家郷伊豆の徳善寺お於て
 あり時小舎茅實朝相續しく鎌倉之世の將軍お任
 せられ多ふあともいあるふいと多かりしとて

○ 水城堤ふ蘇光千引父子を救ふの後
 暴雨くわりしよく煤とてとる

栗町貸本所



